


モデル事業名	地域活性化・次代の担い手育成事業																				
活動団体名	アレアファーレかわさき																				
ホームページ	http://www.areafare.com																				
所属／ 担当者名	事務局長 青山正彦																				
連絡先	電話番号：044-366-5069、Eメールアドレス：mail@areafare.com																				
活動地域	川崎市、東京都杉並区、埼玉県秩父市、福島県天栄村																				
<p>● 活動地域の概要</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>神奈川県川崎市</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>東京都 川崎市 横浜市</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【タワー型マンションの建設により過密化が進む小杉地域】</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">【位置図】</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>・川崎市</td> <td>人口：1,394,000人</td> <td>人口密度：9,660人</td> <td>1世帯人員：2.2人</td> <td>老年人口割合：16.0%</td> </tr> <tr> <td>・杉並区</td> <td>人口：523,470人</td> <td>人口密度：15,387人</td> <td>1世帯人員：1.8人</td> <td>老年人口割合：18.9%</td> </tr> <tr> <td>・秩父市</td> <td>人口：70,776人</td> <td>人口密度：122人</td> <td>1世帯人員：2.7人</td> <td>老年人口割合：25.6%</td> </tr> <tr> <td>・天栄村</td> <td>人口：6,356人</td> <td>人口密度：28人</td> <td>1世帯人員：3.7人</td> <td>老年人口割合：27.2%</td> </tr> </table>		・川崎市	人口：1,394,000人	人口密度：9,660人	1世帯人員：2.2人	老年人口割合：16.0%	・杉並区	人口：523,470人	人口密度：15,387人	1世帯人員：1.8人	老年人口割合：18.9%	・秩父市	人口：70,776人	人口密度：122人	1世帯人員：2.7人	老年人口割合：25.6%	・天栄村	人口：6,356人	人口密度：28人	1世帯人員：3.7人	老年人口割合：27.2%
・川崎市	人口：1,394,000人	人口密度：9,660人	1世帯人員：2.2人	老年人口割合：16.0%																	
・杉並区	人口：523,470人	人口密度：15,387人	1世帯人員：1.8人	老年人口割合：18.9%																	
・秩父市	人口：70,776人	人口密度：122人	1世帯人員：2.7人	老年人口割合：25.6%																	
・天栄村	人口：6,356人	人口密度：28人	1世帯人員：3.7人	老年人口割合：27.2%																	
<p>● 活動地域の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 川崎市の町内会等の加入率は約70%で、この20年で10ポイント減少、地域コミュニティの減衰が進行。背景には、ライフスタイルの多様化等があるが、人口は今後も増加と予想され、加入率低下に拍車がかかる懸念がある。 ② 川崎市子どもの権利に関する調査によると、前回調査では高かった「自己肯定感」が低下し、「自己肯定感」の高低の子どもの相違点として、高い子どもは比較的、地域活動への取組に楽しさを感じており、低い子どもは、特に「学校での勉強」に夢中になれておらず、相対的に一人遊びを好む傾向がうかがえる。 ③ 子どもの地域活動への参加状況は、川崎市青少年意識調査では「参加していない」は90%強で、「参加している」は7.2%。10年前の調査の14.9%から半減、子ども会などの取組が辛うじて参加を支えている状況下にある。 ④ 「全国・運動能力、運動習慣等調査」では、川崎市の小学生男子は8種目中5種目が全国平均を下回り、小学女子は7種目で下回る。中学男子は9種目中8種目を下回り、中学女子の低下は著しく、全種目で下回っている。 ⑤ 町内会・自治会の現状、子どもたちの「自己肯定感」「社会参加」「運動能力等」の低下は、社会情勢の変化の進展が地域住民の生活を支える機能に大きく影響していることがうかがえます。 																					
<p>● 活動の内容</p> <p>・平成20年度</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 川崎みなと祭りにおいて「かわさき舞祭」を開催し、地域活性化を継続的に実践しました。 ② 他都市（対象地域）との経験交流の促進し活動の展開・深化を図りました。 ③ 継続性ある活動とするために、デモンストレーションの実施やワークショップの運営を行いました。 ④ 学校教材として子どもが制作した「かわさきのねいろ」を使用し、新たな楽曲の制作を行いました。 <p>・平成21年度</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 区民祭や各種イベントでのデモンストレーションを実施するとともに、ダンスワークショップを各区で開催し活動の普及・啓発を行いました。 ② 「第36回川崎みなと祭り」において「かわさき舞祭」を開催しました。 ③ 他地域との経験交流を実施します。対象4地域で開催される「舞祭」に参加し、子どもたちやチームスタッフ(保護者等)の経験交流を進め、チームの主体性・自立性の醸成を図りました。 ④ 学校教材として新たな楽曲の制作を行います。子どもたちの社会参加活動を促進する取り組む対象物として、学校教材としての舞祭曲を制作します。新たな楽曲は、地元川崎に縁の深い(川崎出身の坂本九さんの『見上げてごらん夜の星を』)曲を使用し、新曲制作に伴いダンスワークショップを主催運営し、普及を図ります。 																					

● 活動の成果

・平成20年度

- ① 「かわさき舞祭2008 in川崎みなと祭り」を開催しました。
多様な主体との連携・協働を行い事業実施の円滑化及び地域振興の推進を図ることが出来ました。
- ② 新曲制作に取り組みました。
郷土への愛着醸成の取り組みの一環として子どもにより制作された曲を使用し、学校教材「かわさきの Neigh! E-ROAR」を制作しました。
- ③ 子どもたちの社会参加等が促進されました。
親密な人間関係の構築、自己肯定感の向上及び地域の多様な主体との連携・協働によって郷土意識を高める社会参加の取り組みが進みました。
- ④ 活動地域とのダンス活動の取組を通じた経験交流が促進されました。
活動の豊富化及び、都市部や地方部の地域性の違いを越え、子どもの育成等に共通する課題の共有化と活動の展開・深化が図られました。
- ⑤ 子どもの自己肯定感が向上しました。
自尊感情と自己肯定感を高く持つ子どもたちの多くは、他の子どもたちの「不完全さ」や「失敗」も、きちんと受け止め易い様子が伺えます。「自分も肯定、他の人も肯定」という意識の向上が視られています。



20年度 みなと祭り in「舞祭」を開催



20年度 「川崎市人権フェア」参加

・平成21年度

- ① 「かわさき舞祭2009 in川崎みなと祭り」を開催しました。
川崎市をはじめ、川崎商工会議所、社団法人川崎港振興協会、財団法人川崎港湾福利厚生協会など多様な主体との連携・協働を行い事業実施の円滑化及び地域振興の推進を図ることが出来ました。
- ② 川崎生まれの「坂本九さん」曲を使用し、新曲を制作しました。
いずみたく音楽事務所の協力を得て、川崎オリジナル「見上げて GO ROUND!」を制作しました。(JASRAC R-0961177 出-0907755-901)
- ③ 子どもたちの社会参加等が促進されました。
地域の多様な主体との連携・協働によって、前年度に加え成人式への参加など、子どもたちの郷土意識を高める社会参加の取り組みが一層促進されました。
- ④ 活動地域とのダンス活動の取組を通じた経験交流が促進されました。
子どもたちのダンス活動の展開・深化を図るため、他地域との経験交流を実施しました。それぞれの地域性を持った子どもたちの交流によって、活動の豊富化が図られました。また、都市部や地方部の地域性の違いを越え、子どもたちの育成等に共通する課題の共有化を通して、舞祭の活動のモデル性・先進性の確認及び共通の認識化が図られました。



21年度 都市対抗野球応援(東京ドーム)



21年度 「成人の日を祝うつどい」参加

● 今後の課題及び展望

・課題

- ① 多様な主体との連携・協働を一層進める必要があります。
地域活動の停滞や活動のマナー化等が大きな地域課題となっていますが、今後もこれらの組織を含め、より一層多様な主体との連携・協働を進め、一過性の活動でない広域で持続的な活動の定着が課題であると考えます。
- ② 指導者(インストラクター)育成に取り組む必要があります。
指導者に相応しい世代の、勤務条件・雇用環境が思わしくなく、地域活動などの社会参加が振るいません。
- ③ 子どもたちの社会参加の機会を増やす必要があります。
子どもたちの意欲・向上心を止まらせないために、社会参加の機会を増やす調整・支援の必要があります。
- ④ 行政区単位の活動の拠点化と活動体制の組織化及び、財政基盤の確立を引き続き図っていくことが必要です。

・展望

- ① 多様な主体が主催する行事などにはありますが参加の機会が増えつつあり、モデル事業への理解・協力・支援が広がってきていますので、より一層多様な主体との連携・協働を進めるための検討を行いたいと思います。
- ② 平成24年度から「新学習指導要領」に基づき、中学校の保健体育科でダンスが必修化になることを踏まえ、川崎市教育委員会や中学校保健体育研究部会との連携を強め、子どもたちの地域での活動、社会参加の推進によって、地域活性の取り組みを進めて行きたいと思います。